



第27回近畿地方会のご案内

メインテーマ：

地域で絆(つな)ぐ生命(いのち)と健康なくらし

会 期：9月8日(日)

会 場：兵庫医療大学

兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番6

会 長：立花 久大

兵庫医科大学内科学総合診療科主任教授

主 催：兵庫医科大学医師会

兵庫県プライマリ・ケア協議会

演題募集：4月30日(火)まで

事前登録：7月5日(金)まで

学会事務局/運営事務局：

日本プライマリ・ケア連合学会

第27回近畿地方会 学会事務局

兵庫県神戸市中央区磯上通6丁目1番11

兵庫県医師会内

Tel. 078-231-4114 Fax. 078-231-8113

ウェブサイト：<http://primarycare-kinki.info/27/>



近畿ブロック支部について

近畿ブロック支部(略称KPCA:Kinki Primary Care Association)は、学会の会員のうち、近畿ブロック(滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県)に所属する方によって構成され(ブロック支部としての会費は必要ありません)、ブロック代議員会を最高議決機関としています。日常的な運営は、支部長・副支部長・幹事による幹事会が行っています。役員は、以下の通りです。

- ・支部長：外山学(学会理事)
- ・副支部長：雨森正記(学会理事)、大島民旗(学会理事)、戸田和夫
- ・幹事：朝倉健太郎、足立光平、梶山泰男、木戸友幸、小泉俊三、空地頭一、高木幸夫、武田以知郎、羽野卓三、福原俊一、松村理司、水野融、三ツ浪健一
- ・監事：大島久明、澤木政光

(連絡先) 日本プライマリ・ケア連合学会 近畿ブロック支部 事務局

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22-38 三洋ビル4F あゆみコーポレーション内

TEL.06-6441-4918 FAX.06-6441-2055 e-mail:jpca@ayoume.jp

日本プライマリ・ケア連合学会 近畿地方会 ホームページ <http://square.umin.ac.jp/pc-kinki/>

兵庫県プライマリ・ケア協議会 第10回地域ケア研修会 報告(2月3日)

戸田 和夫(戸田内科・リハビリテーション科/兵庫県明石市)

兵庫県医師会館にて『地域の連携システムの構築に向けて』をテーマに、朝から夕方まで本研修会が開催されました。

午前の部では『地域における認定看護師・専門看護師リソース活用について』と題して、大久保礼子 兵庫県看護協会認定看護師教育課程長の司会の下、三人の報告者が各々の実践報告を行いました。一人目の幸田まゆみ氏(訪問看護ステーション マザー施設長)は、「訪問看護における認定看護師・専門看護師の活用について」と題し、二人目の成松恵氏(県立加古川医療センター がん看護専門看護師)は、「がん専門看護としての実践報告」を、三人目の長田勝利氏(製鉄広畑記念病院 感染管理認定看護師)は、「感染管理認定看護師としての実践報告」と題して、いずれも施設を超えて地域への貢献を訴えられました。

昼からは、基調講演として一関市国民健康保険藤沢病院の吉田孝司氏から、「地域包括ケアシステムの構築を目指して - 多職種協働におけるプライマリ・ケア医の役割とは -」と題して、プライマリ・ケアの理念や先生の実践などを拝聴いたしました。

最後は、県の摂食嚥下障害対策班の企画で行いました。最初に高槻市みどりヶ丘病院 リハビリテーション科医長である森脇美早氏から、「摂食嚥下障害における栄養管理の重要性」と題してミニレクチャーをいただき、続いて、『摂食嚥下障害をめぐる専門職種の役割』として、摂食嚥下障害看護認定看護師の立場から永濱郁代氏が、歯科衛生士の立場から岩崎小百合氏が各々の立場からお話をされ、最後に森脇美早氏を交えてシンポジウムを行いました。

いずれの講演も、多様化する医療の中で専門職の連携の必要性が浮き彫りになりました。

第26回プライマリ・ケアを語ろう・おおさか勉強会 報告(2月3日)

梶山 泰男(代表世話人/大阪府大阪市)

プライマリ・ケア連合学会大阪地区勉強会である本勉強会が、大阪大学中之島センターで開催された。

今回のテーマは「地域で認知症を支えるネットワーク構築の試み～つながりノートを使って～」、近年、高齢者の増加に伴い増える認知症を、専門医のみならずかかりつけ医を中心に地域で診て行くシステムが喫緊に求められている。

阪大精神医学の数井裕光先生からは、まず認知症の基礎知識を整理していただいた。認知症患者を早期に拾い上げることにより、専門医と連携した素早い鑑別診断と治療方針の立案が可能となる。それだけでなく、治療中に見られる問題点の洗い出しや精神行動障害(BPSD)などのコントロールにも地域の多職種連携が役立つことが紹介された。またそのためには「連携ノート」と多職種での連絡会が有用であることが試験的利用で明らかになった。

川西市医師会の藤末洋副会長からは、こうした取り組みを可能にする地域の組織づくりには、10年以上にわたる市民、行政への医師会の働きかけや連携組織である「地域ケア委員会」の定期開催などの実績が重要であったことや、行政と医療機関が一体となって取り組むことになり、阪大の協力、支援があつて認知症対策への取り組みを始めることができるようになった経緯が紹介された。現在では、認知症に限らず介護認定者のうち希望者全てで連携ノートの使用が可能になっている。

グループ討論では、参加の多かった薬剤師からもこうした地域活動への参加意欲が表明されたが、地域の実情や従来の連携の取り組みの違いが課題として挙げられた。

本会恒例の、管理栄養士とホテルのシェフによる、健康に関連したランチの試食と懇談では、今回は「糖質制限の考え方を取り入れたランチ」をテーマとした。参加者の関心は高く、多面的な検討を行い、問題点も数多く指摘された。

第3回関西プライマリ・ケア関連合同新年セミナー 報告 (1月13日)

竹中 裕昭 (竹中医院/大阪府大阪市)

「深めよう絆 育てようプライマリ・ケア」をテーマに京都で初の新年セミナーを開催した。まず、水野 融先生(岡田医院)からプライマリ・ケア学会近畿地方会の歩みについてお話をいただいた。当時の武見太郎日本医師会長の構想も踏まえ、実地医家のための会が母体となり、日本プライマリ・ケア学会が設立したことや、その8年後に京都で開催された第9回日本プライマリ・ケア学会で300万円の黒字を出し、それを元手に、「どんなことを言っても笑われない、怒られない」近畿地方会が設立されたこと、そして近畿地方会は1回完結であるため、全体の流れを把握している人間がごく少数に限られることが弱点であり、その歩みを次世代に語り継ぐ必要性が説かれた。



続いて石丸 裕康先生(天理よろづ相談所病院総合診療教育部)に病院総合医流ケースカンファレンス+アルファという企画を行っていただいた。臨床推論には、一発診断(Snap Diagnosis)に代表される非分析的推論と、情報収集・問題表象(情報収集で浮かび上がった症例のキーポイント)・診断仮説形成・鑑別診断を経て診断に至る分析的推論とがあり、診断能力を高めるために、症例の一文サマリーを作る練習をすることを説かれ、代表的な3ケースの症例が提示された。そして、プライマリ・ケア医が患者紹介の際に、経過の整理と情報の一元化を行うことが病院総合医にとって、とても重要であることが語られた。(開催場所:キャンパスプラザ京都2階第3会議室)

市立福知山市民病院 2013 冬 ER チェックリスト大会 報告 (2月2日)

西山 大地 (市立福知山市民病院)

当院は京都府北部の基幹病院であり、地域救命救急センターや地域癌診療連携拠点病院として重要な役割を担っている。また研修医の応募者数も年々増加しており、教育機関としても躍進を続ける病院である。

さて上記勉強会だが、「研修医当直御法度(通称 赤本;寺沢秀一他著)」を元に作成した当院オリジナルのチェックリストに沿って、皆で重要ポイントを確認し合うことに主眼をおいている。研修医が主体となり企画運営し、毎年2回の開催を目標としている。スーパーバイザーとして救命救急センター長の北川昌洋医師、総合内科医長の川島篤志医師、和田幹生医師、鈴木龍児医師をはじめ、日々救急外来でも中心的に活躍中の3年目総合内科後期研修医も参加し、重要ポイントを伝授している。更には今回は院外講師として、元 当院総合内科医で初代チェックリスト作成者の浅川麻里医師(現 市立奈良病院)も招聘し、御指導いただいた。



内容は、内科系では「意識障害のAIUEOTIPSが言えるか?」といった基本的なところから「原因の分からない低体温では血培養採取も!」といった所まで掘り下げた。内科系、外科系、マイナーエマージェンシーと1日で全て確認し、終わった時には皆が押さえるべきポイントを共有できることを目的とした。今回は当院だけではなく、近隣病院や東京の病院からも参加があり、大盛況のうちに会を終了することが出来た。懇親会も開催しよく学びよく遊んだ。

この会は毎年2回のペースで行う予定であり、改善を重ねてより良い伝統ある会になってくれればと願っている。今回のPC連合学会近畿ブロック支部からの補助金は、院外講師招聘の為の費用(交通費他)やポケットサイズにポイントを明記し参加者に配布したラミネート作成費などに利用させていただいた。この場を借りてお礼申し上げる。

地域支部・グループ研究活動に対する補助の公募案内

近畿ブロック支部では、府県単位での地域支部活動や、さまざまなグループ活動を積極的に支援するために、補助を行っています。申請用紙(事務局にご請求下さい)は簡便に作っておりますので、お気軽にご応募下さい。適宜改訂していきますので、より良いしくみにするためのご意見などもお願いいたします。

(1) 補助の要件

- 1) 主催者が日本プライマリ・ケア連合学会(以下、学会)の会員であること
- 2) 近畿ブロック支部の活動の趣旨に沿っていること。ただし、単なる懇親会は補助の対象外とする。
＜参考＞ 日本プライマリ・ケア連合学会 近畿ブロック支部会則
第3条 本会は、近畿ブロックにおけるプライマリ・ケアに関する学術の進歩、知識の普及ならびに人材の育成を図り、プライマリ・ケアの充実および向上に寄与することを目的とする。また、人々が健康な生活を営むことができるように、地域住民とのつながりを大切にしたり、継続的で包括的な保健・医療・福祉の実践及び学術活動を行うことを目的とする。
- 3) 学会本部や製薬会社など、他の主体からの補助や協賛と重複していないこと。
(大学や病院、医師会等の関係団体による支援は可)
- 4) 補助金の振り込みを受けるための銀行口座を有していること(個人名義で可)
- 5) 学会近畿ブロック支部から補助を受けていることについて、案内の文書に記載するか当日アナウンスを行うこと。可能であれば、学会への入会勧奨をすることが望ましい。

(2) 申請の手順

- 1) 申請にあたっては、所定の書式に準じた申請書を提出すること。開催前の申請で、その時点で記載及び添付不可能な項目がある場合は、会合終了後に遅滞なく当該事項について提出すること。尚、補助金の使途を明記し、対応する領収書のコピーを添付すること。
- 2) 申請書2枚のうちの1枚は、学会本部へ「専門医・認定医研修講座」又は「認定薬剤師研修講座」の企画書を提出している場合(すなわち専門医・認定医、認定薬剤師の単位を申請している場合)、そのコピーをもって代えることができる。
- 3) 報告書の提出は、近畿地方会での活動報告(一般演題)発表の形でも良い。近畿ブロック支部全体の情報共有や交流のため、地方会での発表を推奨する。

(3) 補助額

- 1) 基本活動補助費(同一主催者には年1回のみ)として、学会会員10名未満の会の場合1万円、学会会員10名以上の場合3万円を補助する。
- 2) 会合1回ごとのオプションとして、都道府県など一定地域(あるいは職種等の一定範囲)の全会員に案内を送付する場合、ブロック支部事務局より名簿を提供し、案内人数分の郵送料(80円/人)を補助する。
尚、名簿の提供は、郵送物発送のための必要最低限の形式とし、申請者は「当該勉強会の案内以外の目的で名簿情報を利用しない」旨の文言にサインするものとする。

支部からのご連絡

ブロック支部活動について、皆様からのご意見やご提案をお待ちしております!

又、会員の方の関係した講演会等の案内欄を設けております。掲載を希望される方は、

- 1) 日時、2) 会場、3) 講演会名、4) 講演会の対象者、5) 演題と演者、肩書き(主要なもの1つ)、6) 主催者(及び共催者)、7) 連絡・問い合わせ先、8) HP(あれば)、9) 事前申込の要否、10) 参加費用、11) 取得可能単位、を事務局までメール又はFAXでご連絡下さい。

尚、原稿締切日とニュースレター発行日は、2月20日締切→3月下旬発行、5月20日締切→6月下旬発行、8月20日締切→9月下旬発行、11月20日締切→12月下旬発行、となっております。

学会及び支部の精神に則り、会員に役立つ会合の情報提供をよろしくお願いいたします。